

## IV 活力ある高等学校教育の推進

### 1 活力ある県立高校づくりの方向性

#### (1) 基本的な考え方

これまでの「宮崎県立高等学校再編整備計画」（平成 15 年策定）及び「宮崎県立高等学校教育整備計画」（平成 25 年策定）では、「特色ある高等学校の創造」と「活力ある高等学校の創造」の理念を踏まえ、生徒にとって魅力と活力ある教育環境を提供する視点から、学科改編や新たな中高一貫教育校の設置、適正規模への対応等の教育整備を進めてきました。

全日制高等学校における望ましい学校規模の考え方や県内各地域における学びの在り方については、生徒にとって魅力と活力のある教育環境を提供することができるかという視点と地域の持続的成長を支える人材育成の核としての役割という視点を主としつつ総合的に検討していきます。

#### (2) 全日制高等学校の望ましい規模

##### ① 検討に当たっての視点

学校の活力を維持し、教育効果がより良く発揮できるようにするため、以下の視点等から検討を行います。

- 
- 多様な生徒との出会いの中で、お互いに切磋琢磨する機会の確保
  - 生徒の学習ニーズに応じた多様で柔軟な教育課程の編成
  - 教職員の適正な配置による、高等学校教育の専門性の確保
  - 生徒会活動や部活動、学校行事等の活性化
  - 個別最適な学習を提供するための効率的で効果的な教育環境の確保
- 

このことを踏まえ、全日制高等学校については、一定の規模<sup>20</sup>の教育環境を提供することが望ましいと考えます。

---

<sup>20</sup> 学校の規模に関する国の基準として、かつては「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」（昭和 36 年法律第 188 号）第 5 条「公立の高等学校における学校規模は、その生徒の収容定員が、本校又は分校の別に従い、本校にあっては 240 人、分校にあっては政令で定める数を下らないものとする。」との規定があったが、平成 23 年の法改正により削除。学級の標準については、同法第 6 条（学級編制の標準）「公立の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）の全日制的課程又は定時制的課程における 1 学級の生徒の数は、40 人を標準とする。」としている。

## ② 今後の対応方針

大規模校については、他の高等学校との調和を図りながら、各学校の存在意義や期待されている社会的役割等を踏まえて、教育効果を最大限に発揮できるよう対応を検討していきます。

小規模校については、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）等を活用して学校と地域との連携を深め、家庭や地域の持つ教育力を生かしつつ、地域全体で子どもたちの成長を支えていく環境を充実させます。

なお、地域の生徒数の著しい減少等により、魅力と活力ある教育活動の展開が困難となった場合には、学校の所在地や設置学科、生徒・保護者・地域のニーズ等に適切に配慮しながら、統廃合等を含めて、その後の学校の在り方を検討します。

## 2 各地域の学びの在り方

### (1) 宮崎地区

- |                                |
|--------------------------------|
| ◇ 宮崎大宮高等学校（全日制：普通・文科情報）        |
| ◇ 宮崎東高等学校（定時制：普通、通信制課程：普通）     |
| ◇ 宮崎工業高等学校（全日制：工業、定時制：工業）      |
| ◇ 宮崎商業高等学校（全日制：商業）             |
| ◇ 宮崎農業高等学校（全日制：農業・家庭）          |
| ◇ 宮崎南高等学校（全日制：普通・フロンティア）       |
| ◇ 宮崎海洋高等学校（全日制：水産）             |
| ◇ 宮崎西高等学校（全日制：普通・理数、併設型中高一貫教育） |
| ◇ 宮崎北高等学校（全日制：普通・サイエンス）        |
| ◇ 佐土原高等学校（全日制：工業）              |
| ◇ 本庄高等学校（全日制：総合）               |

宮崎地区には、全日制高等学校10校（併設型中高一貫教育校1校を含む。）、定時制課程や通信制課程を置く高等学校2校を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。なお、私立高等学校が7校設置されています。

令和3年から令和10年の間の地区内中学校卒業生数は、令和5年が一時的に400名程度増加するものの、その他の期間は、おおむね4,000名前後で推移すると予測されます。しかし、令和10年以降は、緩やかに減少すると予測されます。

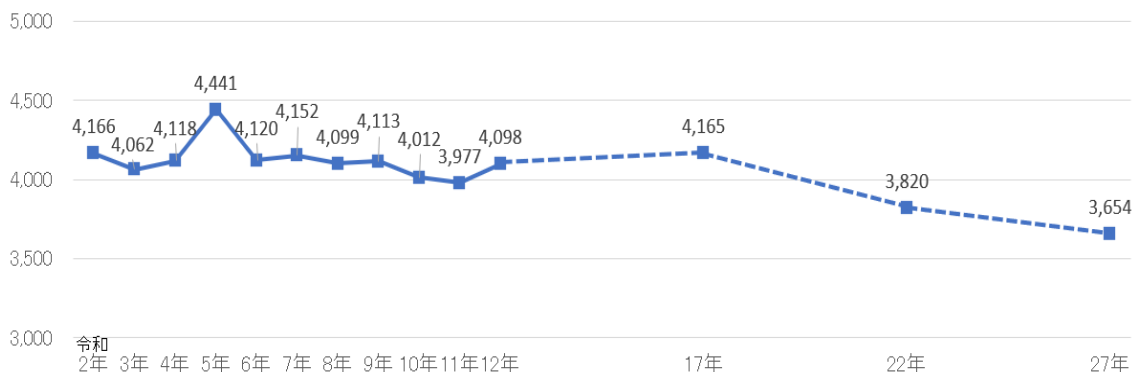


図6 宮崎地区中学校卒業生数の推移（県教育委員会）

### 具体的な方針

- 普通科及び普通科系専門学科については、他の地区の高等学校との調和を図りながら、中学校卒業生の増減への対応を含めて検討していきます。
- 各専門学科については、産業界や高等教育機関等との連携を深めながら、更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。

### ◎募集定員の見通し<sup>21</sup>

課程	学 科	令和2年度	令和10年度
全 日 制 課 程	普通科	1,080人(27学級)	1,360人程度(32~34学級程度)
	普通科系専門学科	320人(8学級)	
	農業科	160人(4学級)	1,200人程度(28~30学級程度)
	工業科	520人(13学級)	
	商業科	280人(7学級)	
	水産科	120人(3学級)	
	家庭科	40人(1学級)	
	総合学科	120人(3学級)	
定時制課程		240人	240人程度
通信制課程		350人	350人程度

<sup>21</sup> 募集定員の見通しは、現時点の予測の数であり、今後の変化が見込まれるため、最終的な募集定員等については前年度に確定し、公表することとなる。

## (2) 南那珂地区

- ◇ 日南高等学校（全日制：普通）
- ◇ 日南振徳高等学校（全日制：農業・工業・商業・福祉）
- ◇ 福島高等学校（全日制：普通、連携型中高一貫教育）

南那珂地区には、全日制高等学校3校（連携型中高一貫教育校1校を含む。）を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。なお、私立高等学校が1校設置されています。

令和3年から令和10年の間の地区内中学校卒業生数は、500～600名程度で推移すると予測されます。しかし、令和10年以降は、緩やかに減少すると予測され、500名を下回る見込みです。

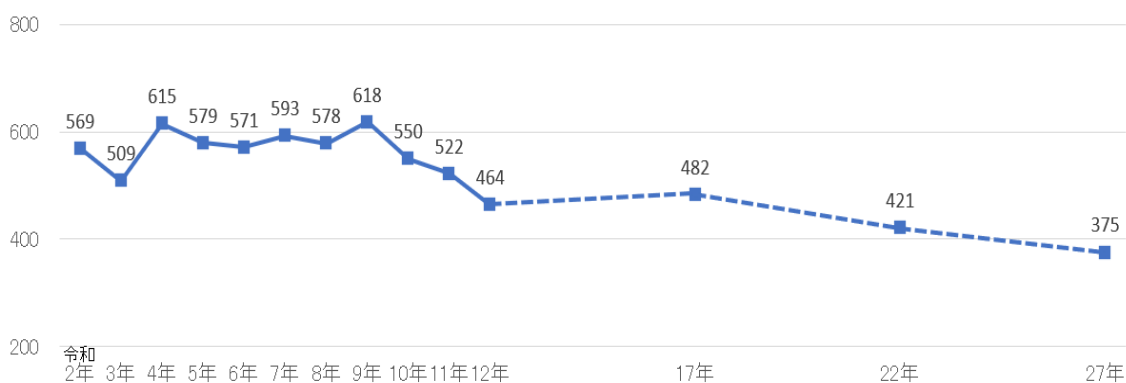


図7 南那珂地区中学校卒業生数の推移（県教育委員会）

### 具体的な方針

- コミュニティ・スクールの設置等により、学校と地域の連携を推進し、家庭や地域等の持つ教育力を生かしつつ学校運営の工夫・改善を図り、更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。

### ◎募集定員の見通し

課程	学科	令和10年度	
		令和2年度	令和10年度
全 日 制 課 程	普通科	280人（7学級）	280人程度（7学級程度）
	農業科	40人（1学級）	240人程度（6学級程度）
	工業科	80人（2学級）	
	商業科	80人（2学級）	
	福祉科	40人（1学級）	

### (3) 児湯地区

- ◇ 妻 高 等 学 校（全日制：普通・商業・福祉）
- ◇ 高 鍋 高 等 学 校（全日制：普通・探究・家庭）
- ◇ 高 鍋 農 業 高 等 学 校（全日制：農業）

児湯地区には、全日制高等学校3校を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。

令和3年から令和10年の間の地区内中学校卒業生数は、900名前後で推移すると予測されます。しかし、令和10年以降は、緩やかに減少すると予測され、700名を下回る見込みです。

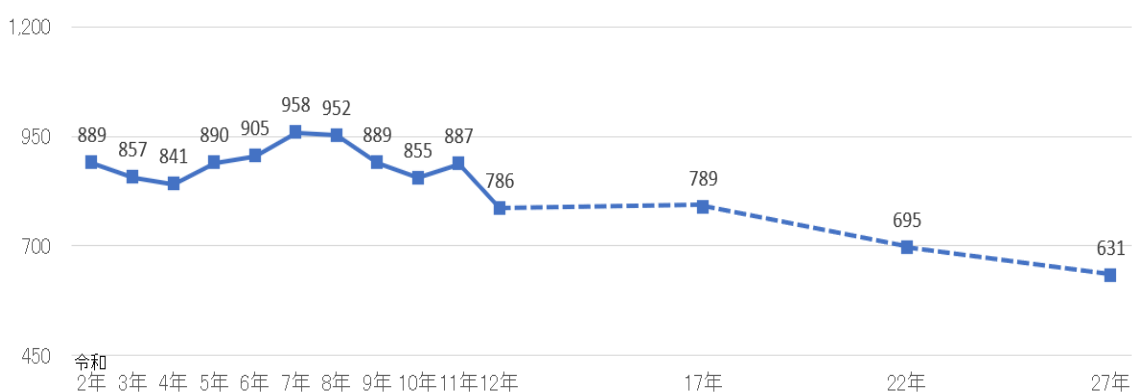


図8 児湯地区中学校卒業生数の推移 (県教育委員会)

### 具体的な方針

- コミュニティ・スクールの設置等により、学校と地域の連携を推進し、家庭や地域等の持つ教育力を生かしつつ学校運営の工夫・改善を図り、更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。

### ◎募集定員の見通し

課程	学 科	令和2年度	令和10年度
全 日 制 課 程	普 通 科	360人(9学級)	400人程度(9~10学級程度)
	普通科系専門学科	40人(1学級)	
	農 業 科	160人(4学級)	320人程度(8学級程度)
	商 業 科	80人(2学級)	
	福 祉 科	40人(1学級)	
	家 庭 科	40人(1学級)	

#### (4) 北諸県地区

- ◇ 都城泉ヶ丘高等学校（全日制：普通・理数、定時制：普通・商業、併設型中高一貫教育）
- ◇ 都城農業高等学校（全日制：農業）
- ◇ 都城商業高等学校（全日制：商業）
- ◇ 都城工業高等学校（全日制：工業）
- ◇ 都城西高等学校（全日制：普通・フロンティア）
- ◇ 高城高等学校（全日制：普通・家庭）

北諸県地区には、全日制高等学校6校（併設型中高一貫教育校1校を含む。）、定時制課程を置く高等学校1校を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。なお、私立高等学校が3校設置されています。

令和3年から令和10年の間の地区内中学校卒業生数は、200名程度増加すると予測されます。しかし、令和10年以降は、緩やかに減少すると予測されます。

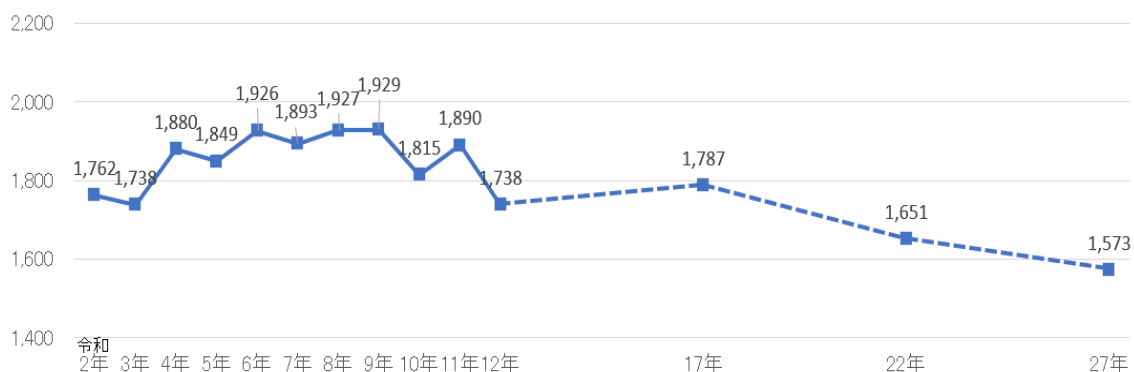


図9 北諸県地区中学校卒業生数の推移（県教育委員会）

#### 具体的な方針

- 普通科系学科と職業系専門学科のバランスを考慮しつつ、それぞれの魅力化を図るとともに、学びのバランスを意識しながら、今後の学校の更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。

#### ◎募集定員の見通し

課程	学 科	令和2年度	令和10年度
全 日 制 課 程	普通科	480人（12学級）	640人程度（15～16学級程度）
	普通科系専門学科	120人（3学級）	
	農業科	200人（5学級）	680人程度（15～17学級程度）
	工業科	240人（6学級）	
	商業科	160人（4学級）	
	家庭科	40人（1学級）	
定時制課程		80人	80人程度

## (5) 西諸県地区

- ◇ 小林高等学校（全日制：普通）
- ◇ 小林秀峰高等学校（全日制：農業・工業・商業・福祉）
- ◇ 飯野高等学校（全日制：普通・家庭）

西諸県地区には、全日制高等学校3校を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。なお、私立高等学校が2校設置されています。

令和3年から令和10年の間の地区内中学校卒業生数は、600名前後で推移すると予測されます。しかし、令和10年以降は、緩やかに減少すると予測されます。

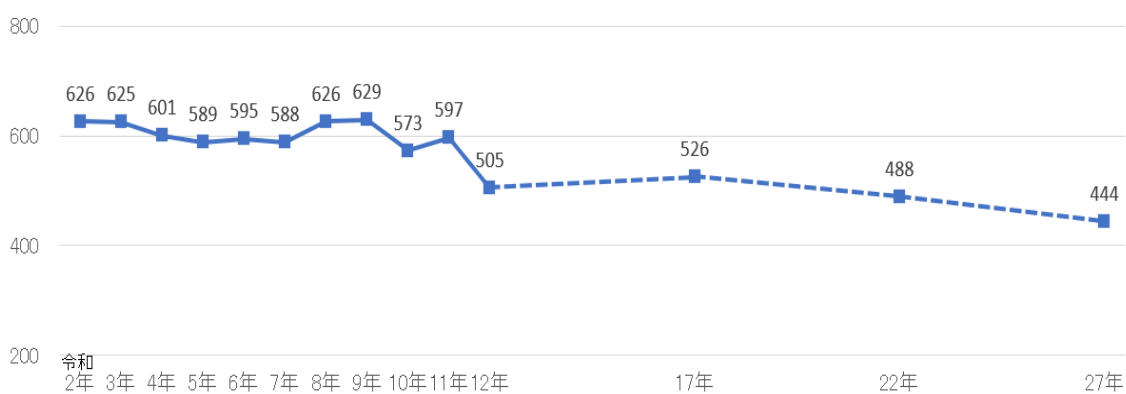


図10 西諸県地区中学校卒業生数の推移（県教育委員会）

### 具体的な方針

- コミュニティ・スクールの設置等により、学校と地域の連携を推進し、家庭や地域等の持つ教育力を生かしつつ学校運営の工夫・改善を図り、更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。

### ◎募集定員の見通し

課程	学 科	令和2年度	令和10年度
全 日 制 課 程	普通科	280人（7学級）	280人程度（6～7学級程度）
	農業科	40人（1学級）	
	工業科	80人（2学級）	280人程度（6～7学級程度）
	商業科	80人（2学級）	
	家庭科	40人（1学級）	
	福祉科	40人（1学級）	

## (6) 東臼杵地区

◇ 延岡高等学校（全日制：普通・メディカル・サイエンス）
◇ 延岡青朋高等学校（定時制：普通・商業、通信制：普通）
◇ 延岡工業高等学校（全日制：工業・家庭）
◇ 延岡商業高等学校（全日制：商業）
◇ 延岡星雲高等学校（全日制：普通・フロンティア）
◇ 富島高等学校（全日制：商業・家庭、定時制：商業）
◇ 日向工業高等学校（全日制：工業）
◇ 日向高等学校（全日制：普通・フロンティア）
◇ 門川高等学校（全日制：総合・福祉）

東臼杵地区には、全日制高等学校8校、定時制課程や通信制課程を置く高等学校2校を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。なお、私立高等学校が2校設置されています。

令和3年から令和10年の間の地区内中学校卒業生数は、前半4年間は200名程度の増加が見られるものの、後半4年間は緩やかに減少すると予測されます。また、令和10年以降は、緩やかに減少すると予測されます。

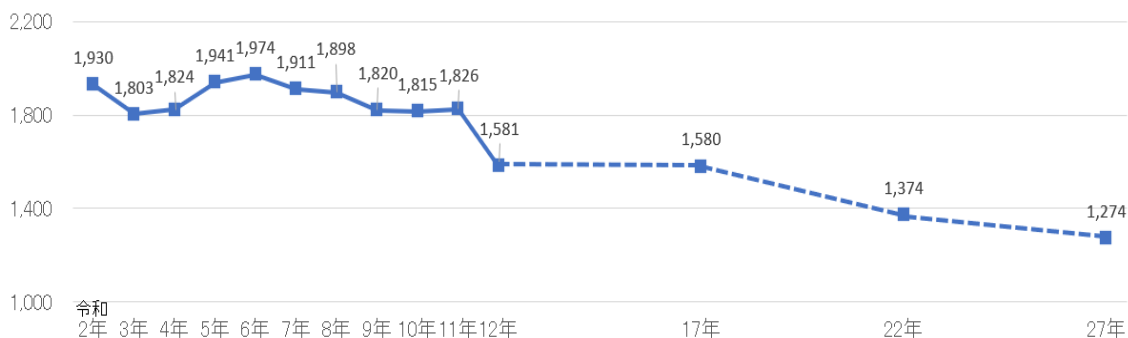


図 11 東臼杵地区中学校卒業生数の推移（県教育委員会）

### 具体的な方針

- 延岡地域については、普通科系学科と職業系専門学科のバランスを考慮しつつ、それぞれの魅力化を図るとともに、学びのバランスを意識しながら、今後の学校の更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。
- 日向・入郷地域については、コミュニティ・スクールの設置等により、学校と地域の連携を推進し、家庭や地域等の持つ教育力を生かしつつ学校運営の工夫・改善を図り、更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。



◎募集定員の見通し

課程	学 科	令和 2 年度	令和 1 0 年度
全 日 制 課 程	普 通 科	480 人 (12 学級)	640 人程度 (15~16 学級程度)
	普通科系専門学科	160 人 ( 4 学級)	
	工 業 科	320 人 ( 8 学級)	880 人程度 (21~22 学級程度)
	商 業 科	360 人 ( 9 学級)	
	家 庭 科	80 人 ( 2 学級)	
	福 祉 科	40 人 ( 1 学級)	
	総合学科	120 人 ( 3 学級)	
定時制課程		120 人	120 人程度
通信制課程		250 人	250 人程度

(7) 西臼杵地区

◇ 高千穂高等学校 (全日制：普通・農業・商業)
◇ 五ヶ瀬中等教育学校 (全日制：普通)

西臼杵地区には、全日制高等学校 1 校と中等教育学校 1 校を設置しており、それぞれの学校が特色を生かしながら魅力づくりに努めているところです。

令和 3 年から令和 10 年の間の地区内中学校卒業生数は、140~150 名程度で推移すると予測されます。しかし、令和 10 年以降は、減少が進み、80 名を下回ると予測されます。

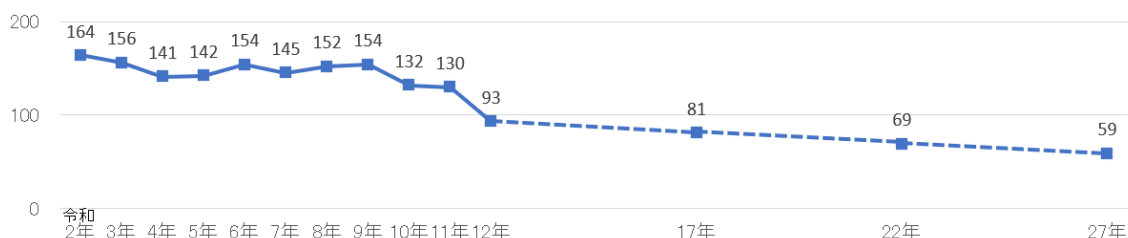


図 12 西臼杵地区中学校卒業生数の推移 (県教育委員会)

具体的な方針

- コミュニティ・スクールの設置等により、学校と地域の連携を推進し、家庭や地域等の持つ教育力を生かしつつ学校運営の工夫・改善を図り、更なる魅力づくりに向けた教育課程等の検討をしていきます。

◎募集定員の見通し

課程	学 科	令和 2 年度	令和 1 0 年度
全 日 制 課 程	普 通 科	80 人 ( 2 学級)	80 人程度 ( 2 学級程度)
	農 業 科	40 人 ( 1 学級)	80 人程度 ( 2 学級程度)
	商 業 科	40 人 ( 1 学級)	
	中等教育学校	40 人 ( 1 学級)	40 人 ( 1 学級 )